

Title	新有機試薬N, N-ジメチル- N'-(4-フェニル-2-チアゾリル)チオ尿素によるパラジウムの吸光光度定量法
Sub Title	
Author	与田, 玲子(Yoda, Reiko) 秋山, 和也(Akiyama, Kazuya) 山本, 有一(Yamamoto, Yuichi) 村上, 悠紀雄(Murakami, Yukio)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1982
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.27 (1982.) ,p.55- 55
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	抄録
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000027-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新有機試薬 *N,N*-ジメチル-*N'*-(4-フェニル-2-チアゾリル)
チオ尿素によるパラジウムの吸光光度定量法*

REIKO YODA, KAZUYA AKIYAMA, YUICHI YAMAMOTO, and YUKIO MURAKAMI

与田玲子, 秋山和也, 山本有一, 村上悠紀雄

新化合物 *N,N*-ジメチル-*N'*-(4-フェニル-2-チアゾリル)チオ尿素 (DPTT) を用い, パラジウムの抽出吸光光度定量法を検討し, 微量パラジウムの最適定量条件を明らかにした。この化合物は室温下, pH 2 で Pd^{2+} と速やかに黄色キレートを生じ, これはクロロホルムに容易に抽出される。モル比法によるキレートの組成比は 1:2 (Pd^{2+} :試薬) である。最適定量濃度は (5.9—19.3) $\mu\text{g}/10\text{ ml}$ である。

既報の *N*-メチル-*N'*-(4-メチル-2-チアゾリル)チオ尿素と比較の結果, キレートの吸収極大が 280 nm から 290 nm へシフトし (Fig. 1), その見掛けのモル吸光係数は 60% 増大した。これはチアゾール環の 4 位に置換したフェニル基による共役系の増加と考えられる。他方, 赤とう色結晶として単離したキレート化合物は, 元素分析及び質量分析により, 上記の組成比に一致する。

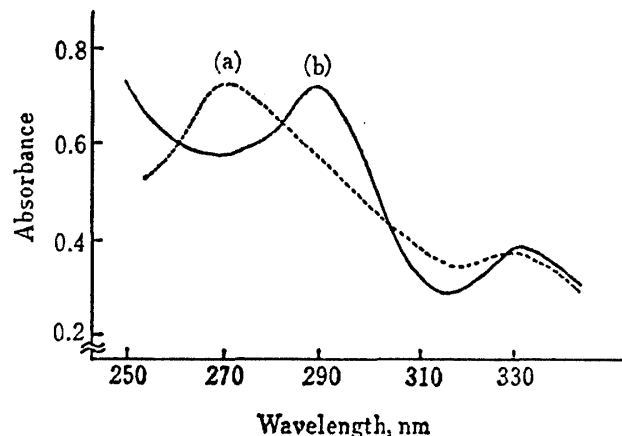


Fig. 1. Absorption curves of DPTT (a) and its Pd-chelate (b) in chloroform
 Pd^{2+} : 20 μg ; DPTT: $4.0 \times 10^{-5}\text{M}$;
Reference: CHCl_3

* 本報告は, 分析化学 30 (1981) 160-164 に発表。